

■ 編集方針

京都大学は、昨年度、初めての環境報告書を、多くの学内関係者やステークホルダー委員会の方々の協力を得て作成、公表しました。その後、ステークホルダー委員会からの提言なども受け、環境配慮の取り組み体制を見直し、手探りの部分もありながら、取り組みを進めています。本報告書は、途中経過も含め、その現状をお伝えするものです。

また、昨年度の環境報告書は、環境コミュニケーション大賞(環境省など主催)における優秀賞(環境配慮促進法特定事業者賞)及び環境報告書賞(東洋経済新報社など主催)における公共部門賞を受賞しました。これを社会からの激励ととらえ、深化・進化するコミュニケーションツールとなることを狙いとします。

編集にあたっては、法律の要求を満たすよう情報を整理し、社会にむけて窓を開きつつも、現状ではまずは学内への周知・浸透が第一との認識から、学内構成員の方々を第一の読者として考えています。特に教材としても使えるものを心掛けました。

作成にあたっては、京都大学環境・安全・衛生委員会の下に設置した学内教職員からなるワーキンググループが執筆編集を担当したほか、昨年同様ステークホルダー委員会を設置し、学内外の関係者より意見を頂いたり、学生の方に取材・執筆に加わって頂いたりしています。

参考にしたガイドライン

環境省 環境報告書ガイドライン(2003年度版)
